

\*\*\*\*\*  
**第88期(2010年度)事業報告書 記載用紙**  
\*\*\*\*\*

技術と社会 部門：

部門長 黒田孝春, 他 3 1 名, 運営委員会開催 2 回, 総務委員会開催 3 回 (その他メール審議 1 回)

- 1) 総務委員会の下に設置された 3 委員会および機械遺産委員会, 研究会, 各担当委員で部門運営にあたった. 特に, 研究活動組織では研究活動が中心となっていた委員会の研究会としての再出発や新規の発足を含め, 4 研究会が設置・活動している.
- 2) 2010 年度年次大会 (名古屋工業大学) において, OS 3 件 (部門単独 3 件, 他部門等と合同無し), 基調講演 1 件, WS 2 件 (部門単独 2 件) を企画・開催した. 部門単独 OS の内訳は機械技術史・工学史 8 件, 技術教育・工学教育 2 1 件, 一般講演 6 件である. また各実行組織の報告事項として後述するが, 部門内に設置された「機械遺産委員会」によるパネル展示を含め, 3 件の市民対象行事を行った.
- 3) 国際会議 ICBTT2010 (2010 年 12 月 2-4 日, 英国ヨーク市の国立鉄道博物館) を開催し, 基調講演 3 件を含む計 2 1 件の講演が発表された.
- 4) 副部門長が兼務するトピックス編集委員が, 日本機械学会誌トピックスの執筆候補者を推薦した.
- 5) 会誌 8 月号「機械工学年鑑 第 2 2 章」について, 部門長の申請により 1 頁の追加配分を受け, 出版委員会の業務を代行する副部門長が構成を定めて, 3 頁分の執筆分担を行った.
- 6) 日本機械学会誌特集テーマ推薦を行った.
- 7) 交通・物流部門と部門連携活動として合同見学会と意見交換会 2 回 (2010 年 11 月 25 日と 2011 年 2 月 7 日) を実施した. 対象者は総務委員会等の関係者に限定した.
- 8) 日本産業技術教育学会主催の「第 13 回エネルギー利用技術作品コンテスト」の第 2 次審査委員会に審査員を 2 名派遣した.
- 9) 広報委員会は, 2010 年 7 月 20 日付けで部門ニュースレター (NL) No. 23 を部門ホームページ上に発行した. また 2011 年 1 月に NL の No. 24 号を発行する予定である.
- 10) 機械遺産委員会は, 2010 年度機械遺産認定式典 (8 月 7 日, 名古屋市のトヨタテクノミュージアム産業技術記念館) において, 出席して認定機械遺産 6 件を報告し, 開催に協力した.
- 11) 機械遺産委員会は, 2010 年認定機械遺産候補選定のための会議を前年に続いて 3 回 (第 3 回 2010 年 3 月 9 日, 第 4 回 6 月 19 日, 第 5 回 8 月 7 日) 開催した. また 2011 年認定機械遺産候補の選定作業のため 2 回 (第 1 回 10 月 22 日, 第 2 回 2011 年 1 月 7 日) の会議を開催した.
- 12) 機械遺産委員会は, 機械遺産監修委員会 (2010 年 4 月 16 日) において, 2010 年認定機械遺産の最終答申を行い, その諮問を受けた.
- 13) 機械遺産委員会は, 2010 年「機械の日」実行委員会に 3 回 (第 3 回 1 月 13 日, 第 4 回 3 月 18 日, 第 5 回 7 月 9 日) 出席し, 機械遺産候補選定進行状況の概要と年次大会における市民開放行事としての機械遺産パネル展示の実施について報告した.
- 14) 機械遺産委員会は, 2010 年度年次大会 (名古屋工業大学) において, 市民対象行事 (市民フォーラム) として 9 月 5 日より 8 日まで認定機械遺産 4 3 件のパネル展示を実施した.
- 15) 機械遺産委員会は, 2010 年度年次大会 (名古屋工業大学) において, 基調講演 1 件「日本における古代から現代に至るトライボロジーの技術史の特色を語る」を企画・開催した.
- 16) 機械遺産委員会は, 2010 年度年次大会 (名古屋工業大学) において, ワークショップ 2 件「戦後の技術開発史を語る」「産業考古学シリーズ 座談会・機械遺産を考える」

を企画・開催した。

- 17) 表彰委員会が中心となり部門賞について審議し、部門功績賞1件を贈賞した。
- 18) ロードマップ委員会は、部門選出委員として、委員会に2回（7月6日、9月7日）出席した。9月7日の委員会のあとには、ロードマップ委員長、副委員長、イノベーションセンター長を交えて、部門から、部門長をはじめ、6名と意見交換を行った。
- 19) 旧技術と社会問題委員会関係者が中心となり、イブニングセミナーを10回開催した。
- 20) 旧技術倫理委員会関係者は、5月15日と11月13日に特別講演会「技術者のための技術者倫理セミナー」をキャンパス・イノベーションセンター東京にて企画・開催した。それぞれ31名、12名の参加者があった。
- 21) 旧技術倫理委員会関係者は、2010年度年次大会（名古屋工業大学）において、9月5日に市民開放行事「技術者におけるリスクマネジメント」を企画・開催した。
- 22) 旧知的財産権委員会関係者は、関東支部講演会（3月10日、明治大学）においてWS「知財・価値観・感性－技術・発明は何を目指すか－」を開催した。4名の話題提供を行った。
- 23) 旧知的財産権委員会関係者は、2011年度年次大会企画のため、12月21日に打ち合わせを行った。
- 24) 人機能支援の工学研究会では、関東支部講演会（3月10日、明治大学）において、機素潤滑設計部門と合同で、OS「生活支援機器」を設け、11件の講演を行った。
- 25) ブルネル・スピリット研究会は、研究会を6月・9月・1月の3回開催した。
- 26) ブルネル・スピリット研究会は、1月、同研究会のホームページを<http://www.brunel-spirit.net/>に開設する。
- 27) ブルネル・スピリット研究会は、日本技術史教育学会 2010 年度セミナー（8月28-29日、相馬）において、大気圧鉄道の模型の実演と講演を実施した。
- 28) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、2010 年度年次大会（名古屋工業大学）において、9月5日に市民対象行事1件「もの作りを通じた『学び』の提案」を実施し、2件の講演を行った。40名の参加者があった。
- 29) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、11月7日に研究会を開催した。年次大会市民対象行事の反省と今後の活動方針について議論した。
- 30) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、バイオエンジニアリング講演会（1月7-8日、熊本大学）において、学会広報用スペースに2011 年度年次大会の市民対象行事の案内および関係するポスター・備品・資料等を展示した。
- 31) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会に所属する2名は、バイオエンジニアリング講演会（1月7-8日、熊本大学）において、OS「応用を意識した人材育成」を設け、5件の講演を行った。
- 32) 当部門登録者が九州支部所属の熱工学部門等登録者とともに「第3回新☆エネルギーコンテスト実行委員会」を組織し、「第3回新☆エネルギーコンテスト」（2010年11月13日（土）、九州大学）を開催した。2011年度以降から当該イベントを部門が主催することを予定し（2011年度は岩手県内で実施、以降全国の大学等で持ち回り）、「新☆エネルギーコンテスト」ホームページ（部門ホームページからリンク）の立ち上げや、イベントへの協賛企業確保に関する活動を行った。
- 33) 九州支部総会講演会（2010年3月15日、熊本大学）において、技術と社会部門のセッションを設け、4件の講演を行った。
- 34) 関東支部総会講演会において、OS「機械技術史・工学史」、「技術教育・工学教育・産業教育・JABEE」および機素潤滑設計部門との合同企画として「生活支援機器」を設け、29件の講演を行なった。また旧知的財産権委員会関係者の報告事項として記述したWS「知財・価値観・感性－技術・発明は何を目指すか－」を開催した。
- 35) 地方組織の活性化に向けて、地域世話人の設置などについて検討を行った。

-----  
〔所属研究会〕

A-TS 20-14 人機能支援の工学研究会

主査：高田 一 開催：1回

A-TS20-15 ブルネル・スピリット研究会

主査：佐藤建吉 開催：3回

A-TS20-16 スターリングエンジンを活用した工学教育研究会

主査：加藤義隆 開催：1回

A-TS20-17 技術教育・工学教育研究会

主査：吉田喜一 開催：1回